総務委員会速記録

平成29年3月8日（水曜日）午前9時開会

出席委員（7名）

委員長	一木重夫君	副委員長	清水良一君
委員	池田望君	委員	稲垣勇君
委員	杉田一男君	委員	鯉江満君
委員	安藤重行君		

出席説明員

村長	森下一男君	副村長	渋谷正昭君
教育長	松本隆君	総務課長	セーボレー孝君
総務課長 企画政策室長	樋口博君	財政課長	江尻康弘君
村民課長	村井達人君	医療課長	佐々木英樹君
産業観光課長	牛島康博君	環境課長	深谷雪雄君
建設水道課長	篠田千鶴男君	母島支所長	湯村義夫君
教育課長	持田憲一君		

事務局職員出席者

事務局長	大津源君	書記	萩原佳代君
------	------	----	-------

議事日程

- 日程第1 小笠原諸島返還50周年記念事業について
- 日程第2 小笠原諸島世界自然遺産について（継続）
- 日程第3 貨物船の動向について（継続）
- 日程第4 小笠原村下水道事業経営戦略について
- 日程第5 その他
- 日程第6 閉会中の継続調査について

◎開会の宣告

○委員長（一木重夫君） ただいまから総務委員会を開会します。

出席委員が定足数に達しておりますので、本日の会議を開きます。

（午前9時）

◎会議時間の延長

○委員長（一木重夫君） あらかじめ会議時間の延長をしておきます。

◎説明員の出欠について

○委員長（一木重夫君） 次に、説明員の出欠について事務局長に報告させます。

○事務局長（大津 源君） ご報告いたします。

本日の委員会の説明員は、全員が出席との通知がありました。

以上でございます。

◎小笠原諸島返還50周年記念事業について

○委員長（一木重夫君） それでは本日の議題に入ります。

日程第1、小笠原諸島返還50周年記念事業について、執行部から報告を求めます。

総務課長、セーボレー君。

○総務課長（セーボレー孝君） ご報告いたします。小笠原諸島返還50周年記念事業でございます。

2月27日に、第7回実行委員会を父島において開催しました。

1点目としまして、自主事業第2次募集を行いましたけれども、その第2次募集の採択、追加及び変更の審議をしました。事業数は2つの事業でございます。そのうち条件つき採用が1事業、補助金額の変更、それを承認した事業が1事業ありました。

2点目としまして、平成29年度事業計画及び予算についてを審議し、事業計画、予算ともに承認をしております。別添に添付しております。事業予算につきましては、5,660万1,000円、そのうち村の補助金につきましては5,100万円。これにつきましては、平成29年度の予算に計上し、今定例会に上程しております。

3点目としましては、後援名義及びロゴマーク等の使用についての報告がありました。名

義につきましては、返還50周年後援名義取扱要領というものを定めております。また、ロゴマークにつきましては、返還50周年ロゴマーク等の使用に関する要領というのを定めて、その扱いを明確にしております。

次に、専門部会ですけれども、記念事業部会が2月10日に開催されました。記念誌部会が12月19日に開催されました。それぞれ、記載の内容について協議をしております。今後の予定につきましては、2月から4月、引き続き各専門部会にて事業の精査を行い、事業計画を立案してまいります。

次に、平成29年度の主な予定ですけれども、5月に、小笠原ヨットレース2017がプレイベントとして実施されます。5月2日にスタートを切ります。

第8回実行委員会において、平成28年度決算ほかを審議する予定でございます。

次に、6月に、父島・母島それぞれの返還祭をプレイベントとして実施します。

次に、7月から10月、第9回、第10回実行委員会を開催する予定で、実行委員会では記念式典の日程ほかについて協議する予定でございます。

8月から12月まで、プレイベントとしましてサマーフェスティバル、母島納涼祭、I S L A N D S J A Z Z @ T H E E A R T Hの演奏、それからカウントダウンパーティー、これらを予定しております。

年が明けて平成30年1月に、協賛事業としまして海開きが父島・母島それぞれで開催されます。

次ページに、先ほど申しましたように、2月27日の実行委員会で決定しました平成29年度の事業計画を添付しております。

1番、事務局体制の強化、2番、記念事業の事業計画立案、実施準備、3番、記念誌製作事業、4番、広報宣伝事業と、こういった内容について計画の中で定めております。

その次に、平成29年度の返還50周年記念事業実行委員会の予算案でございます。歳出の中で5,100万円、受取村補助金とありますけれども、これにつきましては、今定例会で村の補助金として上程しているものでございます。歳出で事業費、管理費、それから人件費、予備費という形で予算が編成されております。

返還50周年記念事業についての報告は以上でございます。

○委員長（一木重夫君） ただいまの報告について、質疑、意見のある委員は挙手をしてください。

清水良一副委員長。

○副委員長（清水良一君） 50周年の実行委員会には出席させてもらいまして、大体内容をわかっているんですが、ちょっと確認なんですけど、平成29年度の5月、小笠原ヨットレース2017（プレイベント）ということで、小笠原を5月2日にスタートするイベントが、この50周年記念事業の最初のイベントになるということで、委員会でも話が出て、そして、ちょっと確認してなかったんですけども、これは内地で何か表彰式みたいなことをやるというのを聞いていたんですけども、最初の内地での大きな広報になるということを知っていたんですが、それはいつ行うのかちょっと確認したいんですけど、よろしく。

○委員長（一木重夫君） 総務課長、セーボレー君。

○総務課長（セーボレー孝君） 先ほども話しましたが、5月2日の12時にスタートしまして、レースが始まるわけですが、それぞれ三浦市のほうを目指していきます。全ヨットがレースを終えた後の5月7日日曜日に三浦市で表彰式をやる予定でございます。

○委員長（一木重夫君） 清水良一副委員長。

○副委員長（清水良一君） それに、当村から、村長がもし行かれたら行けるというようなことも言っておられたんですけど、もし、議会のほうでも何か出張がそのあたりにあったので、出られたらと思ったんですけど、ちょっと時間的に無理なようなんですけど、どなたが出るかは具体的に今わかっているのでしょうか。

○委員長（一木重夫君） 総務課長、セーボレー君。

○総務課長（セーボレー孝君） このヨットレースの最後の表彰式には、副村長が出席する予定でございます。

○委員長（一木重夫君） 清水良一副委員長。

○副委員長（清水良一君） 内地に向けて最初の広報になるんじゃないかと思うので、何かいい形で、委員会のほうでは何かマスコミも呼んでなんていう話をしていたので、派手に何か打ち上げができるといいなと思いますので、よろしくをお願いします。

○委員長（一木重夫君） 副村長、渋谷君。

○副村長（渋谷正昭君） スタートのほうは、村長がスタートに立ち会うと、できれば小笠原のほうに、スタートのほうが一斉に出ますので、マスコミが来てくれればなというのを思っています。

それから、事務局のほうからは、表彰式でプレスが来れば、そういったことの広報であったり、それから物産なんかも展示したりとかできないのか。ただ、表彰式の規模がまだ不明ですので、そのあたりは詰めながら、いい宣伝機会になるように心がけてはいきたいと

思っております。

○委員長（一木重夫君） 安藤重行委員。

○委員（安藤重行君） 前にも質問させていただいたんですが、ヨットレースのことで、これだけじゃないんですが、テレビで有線放送するということは考えていませんか。

○委員長（一木重夫君） 総務課長、セーボレー君。

○総務課長（セーボレー孝君） テレビといいますと村内の有線放送かと思えますけれども、ヨットのレースの内容について見えてきましたので、これからその辺については具体的に詰めていきたいと思えます。

○委員長（一木重夫君） 安藤重行委員。

○委員（安藤重行君） それにも、ほかにもサマーフェスティバルだとか、いろんなプレイベントがあるんですけども、そういうものもやっぱりその都度、テレビで何か放映してもらえたら島の人が結構見られるかなというのもあるので、ぜひその辺は活用していただけたらありがたいかなと思えます。

○委員長（一木重夫君） その他ございませんか。

杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） この実施事業について、採択とか変更とか載っていますけれども、この資料を出すときに、どういう事業は採択されてどういうことをやるのかとか、もうちょっと詳しく載せていただきたい。当然議会からも2人出ていますけれども、時を同じくして、できれば議会のほうにも資料を出していただきたい。

それによって、どういう事業が進んでいつ頃やるのかとか、そういうやはり細かいところもある程度知っておかないと、議会としても、やはりなかなか対応できない部分が出てくるかもわかりませんので、ぜひ資料の提出の際には、その部分も一緒をお願いしたいと、こう思いますが、それは委員長からもぜひお願いしてください。

○委員長（一木重夫君） はい。わかりました。

総務課長、セーボレー君。

○総務課長（セーボレー孝君） 配慮が足りなくてすみません。以後ちょっと、杉田委員がおっしゃったように、もうちょっとその中身が具体的にわかるような資料を添付して報告させていただきますので、よろしく願いいたします。

○委員長（一木重夫君） その他。

池田 望委員。

○委員（池田 望君） あれよあれよと返還50周年間近になってきました。今事業がどんどん、実施することでお忙しくなると思うんですが、そもそもこの返還されてからの50年をどう総括して、これからの50年にどうつなげていくかという大きな趣旨があったと思いますので、その辺のほうの議論と考え方を、もう一回ここで確認したほうがよいと思います。

村長、できたらその辺の思いを、この50周年という一つの区切りをどう捉えて、これからの50年に向けてどう進んでいくか、これが一番重要だと思いますので、村長から一言お願いしたいと、こう思います。

○委員長（一木重夫君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） 昨日、一般質問の質疑がございました。特別措置法に関する議論がそこで行われたわけですが、小笠原は、全体的なというか相対的な歴史はそんなにある島ではございませんが、まず戦前から欧米系の人たちと一緒に暮らしていたという特異な、歴史を持っている島でございます。

そして、その上、昭和19年に太平洋戦争が激化をしまして、硫黄島から随時村民が強制疎開になったと。その当時は5つの村があったんですね、父島に2つ、母島に2つ、硫黄島ということで、しかも住民だけでも強制疎開をした7,000人を超えるというふうなことでございます。

そういう歴史があって、太平洋戦争、第二次世界大戦に日本が敗戦しまして、米軍統治下で24年間、小笠原は米軍の統治下にあったということで、欧米系の方は一部、戦後すぐに島のほうに帰ってこられました、それ以外は帰ってこられないという中で、いわば歴史の空白があったというような、この小笠原の負っている歴史の経緯というものを、今住んでいる子供たちも含めて親御さんたちにも、まず知っていただくという中で、また日本に復帰になり返還になってからの昭和43年からの父島の歩み、それから48年からの母島の歩み、そして現在は小笠原村ということで、1村2島という、こういう戦前とは違った形で行政が営まれているというようなもろもろのことを、やはり、まず多くの方、今住んでいる住民の方に知っていただきたい。それから、返還するために、我々の先達たちがどれだけの苦勞をされたか、そういうことも知っていただきたい。

そういうことを知っていただいた上で、今小笠原で暮らすということがどういうことか、それから、これからの小笠原というものは、未来の小笠原ですね、どういうふうにしていくべきなのかということ、ちょうど50年という半世紀ですから、節目と私は捉えておりまして、歴史を振り返り、それからこれからの村づくりの展望ということ、きちっと議

論する場にしていきたいと思っているんです。

この実行委員会のことは、記念事業とか、そういうことになりますので、こういうことを捉まえた上で、この議会の中でそういう議論が大いにできれば、まずは村民の方に議会を通じて、皆さんに知っていただけるということがあろうかと思えますし、私自身、前も申し上げておりますけれども、今回お祝いだけでこの返還50周年を済ますというふうには考えておりませんので、今私が申し上げましたようなことを、村民との間でも何かの形で議論ができるような、そんな場とか、アカデミックなものもやっていきたいと。それは村事業という形になるかもしれません。

いずれの形であれ、そういうようなことで、日本復帰返還50周年というものに臨んでいきたいと思っているところでございます。

○委員長（一木重夫君） その他ございませんか。

（発言する者なし）

○委員長（一木重夫君） 式典の時期の調整について、発言を求められていますので。

副村長、渋谷君。

○副村長（渋谷正昭君） 今の村長のお話もありましたが、そういう意味で式典というのは非常に重要なものになるかと思っております。

1年後になってはいるんですが、やはり村民だけではなくて、この返還の経緯ということで言うと、国や東京都の関係の皆様にもしっかりと来ていただいて、式典を開きたいということで、時期についてそろそろ絞り込みをしていきたいと思っております。

まず1点は、どうしても船便の関係が出てきますので、船会社のほうには、時期を決めましたら、それに沿った船便の想定をこちらから入れて、その前後の全体の時期の調整ができるかというお話をしましたところ、それは可能であるというお返事をいただいております。

それから、従来から国交省であったり、国の大臣であったり、それから東京都の知事であったり、そういった方々、それから関係の行政機関の皆様にも多く出席していただいております。その中で、国政で言えば国会の関係、それから東京都で言えば都議会、友好町村等で言えば、我々と一緒の6月の議会などが、いろいろ種々ございます。

来年の6月26日が暦で言いますと火曜日に、平日になってしまうということもあって、本来であれば、返還の当日である6月26日が当然理想というふうに考えられるところですが、私のほうで国や東京都と調整している中では、そういった方々のスケジュールを調整する

ときには、土日に絡めるのが一番可能性が高くなるということで、来年で言いますと6月30日が土曜日、7月1日が日曜日、もう一つその週が明けますと7月8日が土曜日、9日日曜日というところで、可能性を聞きましたところ、両方とも国も東京都もそこであれば、今の時点で大臣や知事の日程を押さえることは、確定しないとできませんが、可能性が高いという返事をいただいております。

できれば、できるだけ6月26日に近いほうという思いはございますが、その辺を軸に、今後調整を図っていきたいということで、現状の報告をさせていただきます。

○委員長（一木重夫君） ただいまの式典の時期の調整について、質疑、意見のある委員は挙手をしてください。

ございませんか。

その他もし何かあれば。

杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） この事業計画に載っている本部事務所をビューホテルに移設するという部分で、ちょっとお聞きしますけれども、今事務局は何人体制で、この本部を移した場合、今後大体何人体制ぐらいを考えていますか。

○委員長（一木重夫君） 総務課長、セーボレー君。

○総務課長（セーボレー孝君） 現在事務局は、事務局長と事務局職員と2名体制でございます。4月になりまして新しい事務所のほうに移動するわけですが、基本的にはこの局長と事務局員2名が移動する予定でございます。

そのほか、村の職員1名を、今回の返還50周年事業に当たるために配置する予定でございます。その職員につきましては、村の本庁舎、それからこの事務所を両方行き来する形で携わる形になるかと思っております。村が新たに配置する職員につきましては、課長級の職員を予定しております。

○委員長（一木重夫君） 杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） 今まで以上に体制を強化して、そこつがないように進めていくということだと思います。

これを、私は議会から出ているお2人の委員には前に話したことがあるんですけども、返還事業ですから、ふだんないイベントですよね、その中で、事務局長、事務局員、給与体系は何に準じて決めているのか、また、手当はどうやって決めているのか。村職員に準じて決めているのか、それはわかりませんが、私の解釈の中では、これは本当に必

要なのかという部分もあります。

これは、議会から出ている2人の委員に言っているもので、改めて、これはこういう意味で必要だという部分を、ここではなくて、2人の委員にもう一度確認していただきたいと、こう思いますので、それはよろしくをお願いします。

○委員長（一木重夫君） はい。了解しました。

昨日、少し調べた部分もありますので、後ほどまた報告したいと思います。

その他、返還50周年事業の報告の中で質疑ございませんか。

（発言する者なし）

○委員長（一木重夫君） 質疑がもうないので、これにて質疑を終了します。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（一木重夫君） 異議なしと認めます。

◎小笠原諸島世界自然遺産について（継続）

○委員長（一木重夫君） 続きまして、日程第2、小笠原諸島世界自然遺産について、執行部から報告を求めます。

環境課長、深谷君。

○環境課長（深谷雪雄君） 定例でご報告をさせていただいております世界自然遺産事業経過報告について、ご説明申し上げます。

まず、主な会議のスケジュールなんですけれども、12月には、科学委員会ですとか地域連絡会議という全体を議論する大きな会議が開催されております。

そのほか、今年度特有のこととしては、管理計画という世界自然遺産の管理の基本方針を議論する場が設けられておりまして、それが9月から始まっていますけれども、12月に開催で、また、すみません、誤記がございまして、今後の予定というふうにございますけれども、本日時点では、3月3日と6日の会議についても予定どおり終了しておるものですが、直近で3月6日には、その管理計画の改定作業部会が開催されております。

来年度、まだその管理計画の改定作業が続きますので、4月以降も同じように会議が予定されております。

2番目に、主な対策の状況についてご報告申し上げます。

第1に、兄島のグリーンアノール対策の状況でございます。

これまでもご報告しておりますとおり、引き続きトラップを用いた捕獲を継続しているのと、柵を設置して分布域を制限するといったことが主立った対策として継続されております。

今年度の新たなこととしては、東京都の事業で、Cラインという兄島の一番北西部への侵入拡散を防止するための柵について着手されておりました、3分の1を設置するという今年度事業が予定どおり完了しているというふうに伺っております。

今年度、主な成果ですけれども、まず新規のエリアへの侵入はおおむね阻止できていると、また、それに加えて、トラップによって密度を抑えていることで、在来昆虫類への顕著な影響は確認されていないといったところが、これまでも確認してきたとおりの成果なんです。さらにこれまでご質問などもいただきましたけれども、混獲がどうしても起きてしまうことに対して、まずはセミに関しては、トラップに改良を加えることで低減を図られているというのが、今年度一つ成果としてあります。

また、どうしてもその作業自体が非常に労力、予算がかかってしまうところを、効率化を図る観点から、全部をチェックするというのではなくて、モニタリングラインを設定してチェックをしていく中で、全体の数量などを見積もると、ちょっと作業の効率化が図られたというような成果も一つございました。

今後、引き続きアノールを探索して捕獲をするということを継続するのと、さらに保全対象への影響が出ていないか、あるいはそれ以外への環境影響が出ていないかといったモニタリングの継続、また引き続き根絶に向けて防除技術を開発するといったことも予定されております。

めくっていただきまして、主立った対策の2番目として、兄島陸産貝類保全、外来ネズミの対策でございます。

こちら前回までご報告したとおり、8月に殺鼠剤の空中散布を行っております。その後の経過なんです、かなりの低密度化は図られているものの、クマネズミの痕跡というものが複数の地点で確認をされているという状況がございます。

引き続き、非常に低密度ではございますが、春以降また個体数の増加などがあり得ることですので、それについて警戒を続けていくということになっております。

今後はネズミの生息状況を引き続きモニタリングを継続するとともに、痕跡確認箇所においては局所的にきちんと駆除をするという対策、さらには効果と影響のモニタリング、今後の対策手法の改善を検討といった予定になっております。

3番目の母島陸産貝類保全ですけれども、こちらはツヤオオズアリという外来アリの対策になります。主に南崎と乳房山、北港といったところで対策が行われておりまして、一番広範囲な南崎、こちらは特に陸産貝類への影響も確認されているため、環境省のほうで対策を行っております。乳房山に関しては、非常に局所的な分布地点でしたので、根絶を確認しております。北港に関しては、一時的な低減も確認しておりますが、やはりまだ根絶はできていないということで、来年度以降も駆除を継続するというふうに伺っております。

3番目、最後に小笠原世界遺産センター・動物対処室の運営ということでご報告申し上げます。

4月に世界遺産センター、3月中に完成するというので、そこにおいて動物医療を持たせた部屋を設置しております。そこで事業を行うという内容になります。10月に、その部屋の運営をするために、おがさわら人とペットと野生動物が共存する島づくり協議会というものを設置しておりまして、既にそこに常駐する獣医師の採用についても決定しております。以後、村のほうで、あるいは環境省のほうで、備品等の整備を進めているほか、運営について地域の団体等も含めた調整を進めてきております。

4月以降、どういった運営をするかということですが、目的としては、人とペットと野生動物が共存する島づくりを実現し、世界自然遺産に登録された稀有な生態系とそこに生息する野生動物を保全するということを掲げておりまして、具体的な事業として野生動物を保護すること、あるいは今も対策をいろいろ行っておりますような飼い主のいない猫の対策に資すること、さらにはペットが新しく外来種になってしまわないように、きちんと適正に飼っていただくということの推進、そういったことを事業内容にしております。

報告は以上になります。

○委員長（一木重夫君） ただいまの報告について、質疑、意見のある委員は挙手をしてください。

清水良一副委員長。

○副委員長（清水良一君） 兄島の陸産貝類の保全ということで、8月に、2度目の殺鼠剤の散布を大々的にやったわけですが、島民が一番気になっている、陸産貝類の危機的な状況がどうなっているのかというのをまだ聞いていなかったような気がするので、その辺を教えてくださいなと思います。

○委員長（一木重夫君） 環境課長、深谷君。

○環境課長（深谷雪雄君） 当然、一番成果をはかる部分で、そこが重要だということで、環境省をはじめ関係者の中でも共有はされているんですが、やはりどうしても、カタツムリのほうもすぐに一気に爆発的に増えるというよりは、この実施以降に、また繁殖をしてという形で生息数の回復などが見られるものだと思いますので、正確な評価というのはこれからになってしまうかなと思います。

ただ、一部調査結果ではネズミの被害跡が少なくなったというような速報は聞いておりません。

○委員長（一木重夫君） 清水良一副委員長。

○副委員長（清水良一君） ネズミの被害がなくなるはずだったんですが、少なくなったということで、ちょっと不安は残るんでございますが、この辺、危機的な状況を脱するためにやったので、わかったところで、島民の方たちにその報告をお願いしたいと思います。

そして、残念ながらクマネズミのものと見られる痕跡があるということなんですが、警戒と書いてありますが、これからどんな形でそのネズミ対策をされるのか、わかっている範囲で教えていただければと。

○委員長（一木重夫君） 環境課長、深谷君。

○環境課長（深谷雪雄君） 現在のところ、主に海岸部などが多いとか、そういった、どの辺でという痕跡の分布というのはわかっていますので、そういったところ、書いてあるとおりですけども、局所的な抑え込みということで、ベイトステーションという、殺鼠剤を入れた箱の設置を集中的に行うというのが、今のところの予定となっております。

ただ、また今月の後半のほうにも、環境省のほうから関係者でプロジェクト会議という、この事業の引き続き進め方について議論する場が行われまして、専門家の意見などもつけ加えながら改善をしていくやに伺っております。

○委員長（一木重夫君） 安藤重行委員。

○委員（安藤重行君） 外来のネズミ対策ということで、兄島のほうでは結構成果を出しているようなんですが、実は並行して西島の外来ネズミについても実行していただいていたということで伺っています。かなりの減数というか、数が減って、もう今はセンサーの中にも写らないという状況だということなんですが、ただ絶滅したかどうかということに関してはまだはっきりとわからないということなので、そういったことも、この報告の中に入れていただいたらいいのかなと思うので、これからもこういう報告はずっと出てくるんでしょうから、その辺のことについても、ぜひ報告として上げていただければと思うので、

よろしく申し上げます。

○委員長（一木重夫君） 西島の取り組みについての概要は、今後報告ということで、お願いします。

その他ございませんか。

杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） このグリーンアノール対策でちょっと聞きますけれども、A、B、Cのラインの柵の中で、トラップを5万1,577、捕獲数は3万687匹、トラップ数よりかは少なくはなっていますけれども、この辺のは、受けた感じとしては、やはりこの対策によってアノールが減ってきているのは間違いないというふうに感じるのか、それともトラップのかける場所によっては密度が違うからという部分なのか、アノールの学習能力が出てきたのか、その辺はわかりませんが、減っているというふうに感じているんですかね。

○委員長（一木重夫君） 環境課長、深谷君。

○環境課長（深谷雪雄君） このご報告している内容は、村の事業でというよりは、環境省をはじめとした関係機関の事業ですので、感じているかどうかということのご説明は難しいんですけども、会議等で報告していただいている内容を見ると、実際に発見当初の平成25年度に比べて、わなにかかる率がかなり下がってきて、3分の1ぐらいに下がってきているというデータがございます。

今のトラップというのは、何かにおいだとか、何か警戒を与えるような、警戒とか学習を呼び起こすようなものではなくて、単純に通過して、たまたまそこを通過すれば捕らえられるという、そういう無作為のものでありますので、学習効果とかというよりは、やはり密度が下げられてきているという可能性が高いんじゃないかなというふうに考えております。

○委員長（一木重夫君） 杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） 当然のことながら人海戦術しかうまく働かない場所での作業なので、それでもこれだけ一生懸命やっていたら減るとするのは当然のことながら、そういう数的にはなってくると思いますので、減ったという部分と、あと、やはり場所によって、アノール自体が木から木へ飛び移れるとか、いろんな特技を持っているので、そういう部分でかからないアノールもいると思うんですけども。

じゃ、このCラインは一番北のほうですよ。これは今3分の1設置が終わっているということは、これは絶滅のため万全を期して、Cラインも全線、3分の1じゃなくて残りも全部ラインを引くという設定で動いていると解釈していいんですか。

○委員長（一木重夫君） 環境課長、深谷君。

○環境課長（深谷雪雄君） 来年度の東京都の事業の中で、残りの3分の2を来年度中に実施
をすることで予算を計上しているというふうに伺っております。

○委員長（一木重夫君） その他、世界自然遺産関連でございませんか。

安藤重行委員。

○委員（安藤重行君） グリーンアノールの対策で、以前から言っているんですが、やはりこ
れの対策で毎回毎回船を使って行って帰ってくるということの、結構高額なお金を使って
やっているということがあるので、やはり支出についても、今、議会の中で要望を出した
り、大枠を増やしてくれとかという要望を出したり、環境省のほうに、いろんなことをや
っているわけですがけれども、やはり財源が限られているので、ぜひ効率のいい方法とい
うのを考えてやっていただきたいなということで、その辺についてはどうお考えか、ちょ
っと伺います。

○委員長（一木重夫君） 環境課長、深谷君。

○環境課長（深谷雪雄君） これについて、前回もご質問いただいたかと思いますが、やはり
特に何か行政的な、例えば法律の問題とかで、そこがネックになっているとかというより
は、まさにおっしゃったように効率の面だとか、あるいは安全面だとか、そういったこと
で、事業者側とも打ち合わせをする中で、現在の方法をとっているというふうに伺って
おまして、やはり議論としては、島に宿泊してというやり方も俎上には上がっております
けれども、現状としてはそういうやり方をとっているというふうに聞いております。

○委員長（一木重夫君） その他、世界自然遺産関連でございませんか。

（発言する者なし）

○委員長（一木重夫君） 大丈夫ですか。

それでは、質疑がもうないので、これにて質疑を終了します。これにご異議ござ
いませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（一木重夫君） 異議なしと認めます。

◎貨物船の動向について（継続）

○委員長（一木重夫君） 続きまして、日程第3、貨物船の動向について、執行部から報告を
求めます。

副村長、渋谷君。

○副村長（渋谷正昭君） 貨物船の動向ということで、共勝丸の新船建造に向けた動きについてご報告をさせていただきます。

前回12月の議会で、村長が12月の初めに、共勝丸の本社並びに融資の交渉をしている銀行並びに造船の計画をお願いしている造船会社のほうに訪ねたことは、ご報告をさせていただいたかと思います。

その後、融資に当たって、融資後の返済に当たっての事業計画を、共勝丸のほうで銀行に提出するという事になっていて、そちらのほうは1月の下旬に提出をしたという報告を受けております。

その後の動向を実際に現地で見きわめるという意味を含めまして、2月10日に、私と東京事務所の職員並びに池田議長で銀行並びに本社、造船会社を訪ねてまいりました。まず銀行のほうには、改めて公共性の高い航路である、貨物船であるということのお話と、あわせて今後の一番の収入源である貨物の動向について、こちらから資料等もお渡しして、お話をしてきたところです。

その中では、東京都の100%補助によって運搬をしておりますプロパンガスの値上げについての東京都の了解があったこと、それから村の主に資源ごみ、こちらの輸送については今後まだまだ段ボールが増えていることですか、将来的には父島のリレーセンターができることで、さらに貨物量が増えると。

それから、今後の、公共事業による資材の運搬というのが多いわけですから、振興事業の予定、村で言えば保育園に始まり学校など、まだまだこの先続くというような説明をさせていただき、そちらのほうについては、大分ご理解を深めていただいたかと思っております。

銀行については、肝心の船価、幾らの船になるのかということが、その時点では固まっていないということをお聞きいたしまして、こちらについては、できれば3月末を目安に、できるだけその資料の提出を願いたいということを、共勝丸のほうには告げておりました。

その後、共勝丸との話をした後、前回この船をつくられた地元の造船会社をお訪ねし、状況を確認したところでございます。その時点では、その船会社、震災で復興して改めて頑張っていらっしゃるわけですがけれども、船の需要が、さまざまな船の種類、単に貨物船ばかりとか、そういうふうになると設計側の時間も非常に短縮されて余裕が出るんですが、現在の受注状況がいろいろな船種の船を受けているということで、なかなか共勝丸の見積

もりを固めるというところまで至っていないということでございました。

銀行でのお話の状況も、我々からもお話をし、早急に船価を詰めていただくことをお願いして、帰ってきたところでございます。

また、この委員会に先立ち、直近の状況を3月2日に電話で確認しました。やはり船価の決定という中では、共勝丸のほうでも、今後ほかの2社についても同様の船をつくった場合にどれだけの船になるかということ、今交渉しているということでありました。

非常に我々村のほうでも心配しているという状況ですので、新たな情報があれば、今後ともこちらに上げていただくように申し添えておいたところでございます。

現状については以上でございました。

○委員長（一木重夫君） ただいまの報告について、質疑、意見のある委員は挙手をしてください。

稲垣 勇委員。

○委員（稲垣 勇君） 今までの経緯は説明されたんですけども、以前から共勝丸に頼ってきたガソリンの供給の問題、これなんかは大丈夫だと言っていたのが、実際には販売する規制が張られたり、プロパンの供給が不足したり、いろいろ問題が起きておるわけですけども、今の説明の中で、以前につくっていただいた造船会社との設計は、まだでき上がっていないということですか。

○委員長（一木重夫君） 副村長、渋谷君。

○副村長（渋谷正昭君） 船価については、概算ということにはなりますが、その概算についても具体的にもう少し、融資の決定に至る数字を出すということになります。当然詳細の設計というのは契約が決まってからということですが、銀行側が融資決定をするに当たってのレベルでの船価の算出というのが、まだ済んでいないということでございます。

○委員長（一木重夫君） 稲垣 勇委員。

○委員（稲垣 勇君） それと、最終的には金融機関からの融資が受けられないと、造船までには多分いかないんだと思うんです。今までの説明を受けた中では、特にそうだと思うんですけども、これだけ村からも村長が行ったり、副村長が出かけたり、議長が出かけたりして、村の実情、そして資材の、これからの村の事業だとか、そういうものを含めて説明している中でも、まだ金融機関との確定ができていない、そういう状態だろうと思うんですけども、どうですか。

○委員長（一木重夫君） 副村長、渋谷君。

○副村長（渋谷正昭君） 私も2月に行った際に、初めてその取り引き銀行の方ともお会いしましたし、造船所も初めて伺いました。村長が伺った際にもあったんですが、それぞれは、やはり地元企業として何とかしたいという思いは伝わってまいりました。そういう意味では、共勝丸のほうに、早くそういったことが解決するように、動きをしてほしいということとは伝えているところでございます。

○委員長（一木重夫君） 稲垣 勇委員。

○委員（稲垣 勇君） 昨年からずっと運搬の動向を見ている、今の状態ではいつ運航ができなくなる状態になってしまってもおかしくない状態だろうと思うんです。暮れから正月にかけて館山で避難して、結局郵便物も遅れ、私なんか1月中に出さなければならない書類が結局は2月に来てしまって、提出ができなくなった経緯があります。

何としてもやっぱり、今の定期船おがさわら丸、ははじま丸だけでなく、もう少し運搬に関してももっと村がかかわって、今後はいくべきだろうと思いますけれども、村長の考え方を聞かせてください。

○委員長（一木重夫君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） まず、共勝丸という一企業に対して、今回これだけの行動をしているということは、以前この議会でも答弁させていただきましたように、村民の生活に支障がないようにということが大前提でございます。

そのために、行政としては、見ようによっては相当首を突っ込んでいるというふうなこともございますが、今稲垣委員から直接的な自分たちが受けている支障、これはやはり船が来ないことによって、出すべき期日がある書類が出せないとか、それから貨物の建築物ですとか、そういうものの大きなものをこの船に頼っているということ。

で、まずそこを行政として村民生活に支障のないようにしなきゃいけないということがまず大きな1点と、返還後すぐから、この共勝丸がずっと小笠原の貨物の部分を担っていたいてくださったこと、それから6年前の3・11の東日本大震災の際、みずからの本社をはじめ、ご家族が大変な被害とかを受けられた中でも、小笠原の業務に従事をしてくださったという、そういう経緯から、何とか共勝丸さんに担っていただくのがいいという判断から、今のような、先ほど副村長が報告したようなことで動いております。

しかしながら、考えなきゃいけないことは、もとに戻りまして、村民の生活に支障のないようにということが、私たちの第一主眼でございますので、今委員が言われたこと、村がどこまでかかわるかというかかわり方というのはいろいろあると思うんですが、まず村民

生活に支障のないようにということを確保しなければいけないので、確保するためにはいろいろなことを考えていかなければいけないと思っております。

そのためには、そう残された時間が多くあるというふうには考えておりません。そのことは承知おきの上で、いろいろ頭を悩ませているところであるというふうにご理解をいただければと思います。

○委員長（一木重夫君） 池田 望委員。

○委員（池田 望君） 一緒に石巻まで、この件において副村長ともども行ってきた身として、ちょっと一言お話をさせていただきます。

融資先と思っていらっしゃる銀行については、公共性について大変よく理解をしているというふうにおっしゃっておいりました。私のほうからは、融資はどのぐらいできるのというような、ちょっと単刀直入な聞き方をしたんですが、基本的には、見積書が上がってこないと幾ら貸せばいいかわからないでしょうという、根本的なことをお返しいただきまして、それでは、ここから詰めていこうねということでおりました。

私は、途中から後の日程がありまして、造船所のほうへは行かなかったんですが、今副村長が説明されたとおりでと思います。まずは、船会社から見積もりができ、それをもって融資をされるということだろうと思っております。

それともう一つ、今ちょっと気になったのは、今回、共勝丸が来なくて結構大変だったんですが、それは船の問題ではなくて、海況が大変悪くて走れなかったという、こういう状況だったので、ほかの船でも同じことが起こるということを申し添えておきたいと思えます。

○委員長（一木重夫君） この件について、ほかに何かございませんか。

（発言する者なし）

○委員長（一木重夫君） 質疑がもうないので、これにて質疑を終了します。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（一木重夫君） 異議なしと認めます。

◎小笠原村下水道事業経営戦略について

○委員長（一木重夫君） 続きまして、日程第4、小笠原村下水道事業経営戦略について、執行部から報告を求めます。

財政課長、江尻君。

○財政課長（江尻康弘君） こちらの経営戦略につきましては、計画的かつ将来的に安定的な経営を行っていくことを目的といたしまして、中長期的な経営の基本計画でございます経営戦略の策定を、総務省のほうから要請されておるものでございます。

資料につきましては2種類ご用意させていただいております。様式に沿った表が7枚ほどございますけれども、今回広報を兼ねた形での2枚のペーパーも別途配付させていただいておりますので、そちらをもとにお話のほうをさせていただきたいと思っております。では、こちらの資料のほうを読み上げる形で説明のほうをさせていただければと思っております。

小笠原村下水道事業経営戦略。

東京都小笠原村。

こちらは下水道事業の経営戦略でございますけれども、こちらで定めますのは小笠原村の浄化槽事業特別会計でございます。法体系の中での下水道というのが、今小笠原村で、大体年に2,000万円程度の予算をもって実施しております小笠原村浄化槽事業特別会計のこととなります。

まず、経営の基本方針でございますけれども、小笠原村では雨水の適正処理を行うことにより、生活環境の保全、自然環境の保護を努めることを目標に、生活排水処理施設整備を進めており、コミュニティプラントと浄化槽をあわせた下水道普及率は、父島・母島ともにほぼ100%を達成し、公共水質保全に大きく貢献しております。

父島の行政区域の大部分については、コミュニティプラントにより処理を行っておりますが、本事業については、父島の第2集落として位置づけられている扇浦・小曲地域のコミュニティプラント区域外の個人設置の浄化槽の適正管理を目的に、市町村設置型の浄化槽事業として、平成16年度に小笠原村浄化槽条例を施行、事業を開始し、平成17年度より供用を開始しました。供用開始から既に11年を経過しているところでございます。

小笠原村の良好な自然環境を維持していく上で、排水処理施設の適正な管理は欠かすことはできません。汚水処理費用は本来使用料収入により賄うこととされていますが、本事業の処理区域内人口は200人程度であり、本土から1,000キロメートルの超遠隔離島という地理的条件に加え、塩害、台風等の厳しい自然条件により、企業会計として収支のバランスをとることが困難な状況となっており、一般会計からの繰入金に頼らざるを得ない状況にあります。

赤字分全てを使用料の料金改定により回収することは現実的ではありませんので、全体経

費のうち維持管理費分を使用料で賄える料金改定を、平成25年度から平成27年度の3カ年で段階的に実施してきました。また、委託業務の見直しなど維持管理費の削減を進め、一般会計からの繰入金の縮減を図り、今後とも経営の健全化を推進していきます。

計画の期間でございますけれども、平成28年度から平成37年度まで10年間でございます。5年に1度の見直しを予定しております。

もう一方の様式の中に、別記様式2号というのがございます。これは今後の収支計画等を記載したものでございますけれども、言葉で説明をさせていただくと、このような形になるということでお聞きいただければと思います。

最初に、投資につきましてですが、平成17年5月に供用を開始してから、既存の個人設置の浄化槽について順次村への移管を実施し、平成24年度をもってほぼ終了しました。

今後は、合併浄化槽処理区域内の新築物件への対応や、小規模集落地域の複数戸接続による効率的な浄化槽整備を推進していきます。また、事業規模が小さく、住民の建築計画に大きく左右されてしまうため、処理区域内の建築需要についての的確に把握することにより、計画的な整備に取り組んでいきます。

次に、財源についてでございますけれども、処理区域内人口は、平成17年度の事業開始当初では120人程度だったところ、村事業による扇浦分譲地事業による住宅、宿泊施設の増加や、民間アパートの増加もあり、平成28年度には200人を超える規模となっています。

また、平成23年に小笠原諸島が世界自然遺産に登録されたことによる観光客数の増、平成25、26年度に扇浦分譲地の第2次募集により、販売された区画の住宅の建築も進んでおり、平成28年7月には、定期船おがさわら丸の新船が就航されたこともあり、今後も処理区域内の人口及び観光客数については増加傾向になると見込めるため、料金収入についても増加の傾向を見込んで積算を行っています。

浄化槽整備に対する収入の確保については、処理区域の建設需要を的確に把握し、小笠原諸島振興開発事業計画において実施することにより、確実に歳入を確保できるよう計画的に事業を進めていきます。

職員人件費並びに浄化槽整備費のうち、一般財源部分及び村債借り入れに伴う元利償還金については、一般会計からの繰入金に頼らざるを得ない状況となっておりますが、平成25年から平成27年度の3カ年をかけ、段階的に使用料の改定を実施したことにより、繰入金については縮減が図られていることから、引き続き経費削減を徹底し、健全な運営を行ってまいります。

効率化、経営健全化の取り組みについてでございます。組織、人材、定員、給与に関する事項でございます。職員給与費については、担当職員2名により、コミュニティプラント事業を兼務して行っており、コミュニティプラント事業75%、浄化槽事業25%の人件費割合とし、最低限の人員により効率的に行っています。

また、コミュニティプラントの施設維持管理業務とあわせて行っている浄化槽の運転管理、保全管理業務の外部委託については、平成27年度より性能規定、複数年契約による包括的な契約方式に変更したことに伴い、委託料については若干の増額となっておりますが、電気代、水道代、薬品代を受託者負担としたため、維持管理費の縮減が図られています。

次に、広域化に関する事項でございます。内地から1,000キロメートルという超遠隔離島という地理的条件のため、広域化・共同化の検討は行っていません。また、本事業については、人口密度の低い地域のため、浄化槽による処理を実施しており、高い投資効果、経済効果を得られています。

民間の資金、ノウハウの活用に関する事項でございます。村内に高い公共サービスを提供可能とする技術やノウハウを蓄積した事業者が存在しないため、民間の活力の導入については一部に限られているところでございますが、村職員と、運転管理、保全管理を受託業者と連携し、技術力の向上を図り、設備の延命化に取り組んでいきます。

その他の経営基盤の強化に関する事項でございます。平成25年から平成27年の3カ年をかけ、料金改定を実施しており、今後とも経費削減等を徹底することにより、健全な運営を図っていきます。

今説明させていただいた事項が、後に添付してございます様式に沿った形の経営戦略の内容でございます。こちらは公営企業、村には、この浄化槽事業特別会計とともに簡易水道事業特別会計も、公営企業に分類するものでございます。

この公営企業の経営戦略につきましては、全ての事業を平成32年度までに策定することが求められているところでございますけれども、今回は集中改革期間である平成28年度から平成30年度までという中で、先行してこの下水道事業の経営戦略を策定させていただいたところでございます。

今後、平成32年度までには、簡易水道事業の経営戦略につきましても、同様の様式をもって定めることが、要請を受けているところでございます。

下水道事業につきましては、何度も説明の中で出てまいりましたが、料金改定を平成25年から平成27年の間に実施していること、それから委託業務につきましても、見直しを

行っていること、それから事業開始から11年間ということで、歴史が短い中でも一般会計からの繰入金が増減できているというところから、今後もこの状況を維持しながら、この事業を進めていくということで、今回このような経営戦略を策定させていただいたものでございます。

この戦略につきましては、議会に説明の上、公表をさせていただくということから、今回この総務委員会の議題として、説明をさせていただいたところでございます。よろしくお願いいたします。

○委員長（一木重夫君） 国のほうから議会に報告が求められているという部分でした。

ただいまの報告について、質疑、意見のある委員は挙手をしてください。

ございませんか。

（発言する者なし）

○委員長（一木重夫君） 質疑がないようですので、これにて質疑を終了します。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（一木重夫君） 異議なしと認めます。

◎その他

○委員長（一木重夫君） 続きまして、日程第5、その他の事項で何かございますか。

これまでの議題で質問の取りこぼしなどでも構いません。

（発言する者なし）

○委員長（一木重夫君） 質疑がもうないようですので、これにて質疑を終了します。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（一木重夫君） 異議なしと認めます。

◎閉会中の継続調査について

○委員長（一木重夫君） 次に、日程第6、本委員会の閉会中の継続調査についてお諮りします。

お手元に配付の特定事件継続調査事項表の事項を調査するため、閉会中の継続調査の申し出をしたいと思います。これにご異議ございませんか。

(「異議なし」との声あり)

○委員長 (一木重夫君) 異議なしと認め、閉会中の継続調査を申し出ることに決定しました。

◎閉会の宣告

○委員長 (一木重夫君) お諮りします。

本日の委員会はこの程度をもって終了したいと思います。これにご異議ございませんか。

(「異議なし」との声あり)

○委員長 (一木重夫君) 異議なしと認めます。

よって、本日の委員会を閉じます。

これをもちまして、総務委員会を閉会します。

お疲れさまでした。

(午前10時11分)